



夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

◆私が出会ったのは、初めて知ったのは…

◆私が石井桃子さんを初めて知ったのは、99歳の人がこれだけのことをやるのかというふうには思いませんでした。その後、その文章を書いていらっやいますからね。まあ、すごいものです。

◆石井桃子先生を今回お話しすることになりました。たのは、今年(2007)の3月10日で百歳になりました。岩波少年文庫の編集を手がけ始めた頃、◆昨年の暮れにお目にかかった後、新しい訳の本『百まいのドレス』(岩波書店)を送ってきました。ほんとに原作に沿ってきちっとと訳されて、見事な訳です。99歳の人がこれだけのことをやるのかというふうには思いませんでした。その後、その文章を書いていらっやいますからね。まあ、すごいものです。



石井桃子から学ぶ、子どもに絵本を手渡した人、
『開館1周年記念・松居直講演会』より

石井桃子・101歳のあゆみ(上)
★1907. 3. 10：埼玉県浦和に生まれる★1928. 3：日本女子大学校英文科卒業★1929～1933：文藝春秋社で「婦人サロン」「モダン日本」などを編集★1934～1936：新潮社で「日本少国民文庫」を編集★1938：児童図書館・白林少年館を開設★1940：白林少年館出版部を創設し「たのしい川邊」「クマのプーさん」を翻訳出版★1942：「ノンちゃん雲に乗る」の執筆を開始★1945：宮城県で友人と共に開墾・農業・酪農を始める★1950：岩波嘱託となり「岩波少年文庫」の企画編集に携わる★1951：「ノンちゃん雲に乗る」が第1回芸術選奨文部大臣賞を受け、ベストセラーとなる

◆「熊のプーさん」それが『熊のプーさん』と貸してくれた。それが『熊のプーさん』と貸して

◆初めの出会い
◆そして、石井先生にお目にかかったのは、今から50年ほど前なんです。私がまだ30そこそこの頃です。『こども』

◆乾富子さんのところへ、原稿のことで用事があって行きました◆私が乾さんの傍へ行きますと「あ、いいところへ来てくれましたね。ご紹介しましょう」って。◆この方が、石井桃子先生です」と、乾さんは紹介してくれました◆私は最敬礼しました。これが『クマのプーさん』の人と思って、「ほんとにありがとうございます」と、その時に思い

最初に知ったのは、第2次世界大戦の途中で、中学の私は、4年生から5年生にかけてかなり少女小説を読みました。なぜ少女小説を読んだかと言いますと、私の大変関心を寄せている少女がおりまして、その人がものすごい読書家なんです。◆この私にある時に、「この本は面白いですよ」と貸して

2007. 7. 15
空とこども絵本館にて

◆その後、時々石井先生にお目にかかって、いろんなことを教えていただきました◆もう抜群の編集者です。長い編集経験、しかも一級の編集経験を持っていらっしゃるから、そういう中でいろんな人の日本語についても出会って、いろんな人の日本語の力、言葉の力、それを耳からも目からも、そして編集者としての経験を通してお感じになられているんですね。(つづく)

◆その後、時々石井先生にお目にかかって、いろんなことを教えていただきました◆もう抜群の編集者です。長い編集経験、しかも一級の編集経験を持っていらっしゃるから、そういう中でいろんな人の日本語についても出会って、いろんな人の日本語の力、言葉の力、それを耳からも目からも、そして編集者としての経験を通してお感じになられているんですね。(つづく)

ものもとを編集して直後、創刊して直後で、◆私は岩波書店に、有名な童話作家で編集者をしてらっしゃる乾富子さんのところへ、原稿のことで用事があって行きました◆私が乾さんの傍へ行きますと「あ、いいところへ来てくれましたね。ご紹介しましょう」って。◆この方が、石井桃子先生です」と、乾さんは紹介してくれました◆私は最敬礼しました。これが『クマのプーさん』の人と思って、「ほんとにありがとうございます」と、その時に思い

デザインを一新
新看板が完成！
絵本館ホールの名称が「十九番館」から「夢の本棚」に変更となつてより、待望久しかった新たな「ロゴマーク」が完成しました。それに伴い、これまで絵本館ホールの東側に設置されていた看板が取り替えられ、3月20日、装いを新たにしてお目見えとなりました。